

四国高校選手権ロード

松山学院 男子ワンツー

自転車部の四国高校選手権は31日、香川県綾川町ふれあい運動公園特設コースで個人ロードレースを行い、男子(55・3キ)は井上悠喜(松山学院)が1時間30分4秒で制した。各務遼音(松山学院)

が21秒差で2位に入った。女子(31・6キ)は富田愛琉(松山学院)が2位となった。四国高校選手権の各競技は19日から本格的に始まり、22日まで四国各県で実施する。

自転車

(香川県綾川町ふれあい運動公園 周辺道路特設コース)
◇…愛媛勢の主な成績…◇
▽男子個人ロードレース(55・3キ)①井上悠喜(松山学院)1時間30分4秒②各務(松山学院)1時間30分25秒③松田(松山学院)1時間33分27秒④吉田(松山学院)

1時間33分29秒⑦大谷(松山学院)1時間33分36秒⑧武西(松山学院)1時間36分30秒⑨上野(松山学院)1時間36分39秒⑩白高(松山学院)1時間36分47秒⑪早川(松山学院)1時間36分58秒
▽女子個人ロードレース(31・6キ)②富田(松山学院)1分10秒③黒田(松山学院)1分10秒④井上(松山学院)1分16秒④

V主将が支え 準V2年生続く

個人ロードレース男子は松山学院の経験豊富な3年生が2年生を支え、ワンツーフィニッシュを飾った。

昨年の全国高校総体3位の井上主将を軸に、各務ら2年生4人を加え計7人で挑んだ。中盤以降4人に絞られた



四国選手権の自転車男子ロードレースで優勝した松山学院の井上悠喜(中央)と2位の各務遼音(左)＝香川県綾川町(松山学院高提供)

先頭集団には井上と各務が入っていた。井上が勝負どころなどを各務に助言し終盤に抜け出ると、そのままトップで駆け抜けた。「2年生になり練習に対する意識が変わった」という各務も力走。「先輩がペース配分してくれ、最後に力が出た」と他校の生徒とデッドヒートになった最終周を制し、2位で食い込んだ。松山学院勢は10位以内に5人が入るなど、今後につながるレースとなった。井上は「2年生にも励みになったと思う。力を合わせ、インターハイの総合優勝9連覇を狙う」と前を見据えた。(宇和上翼)